

「確かな学力の向上をめざす学習指導に関する研究」
～言語活動の充実による授業改善～

I 主題設定の理由

本校は平成20年から「確かな学力の向上をめざす学習指導に関する研究」の研究主題のもとで「確かな学力」の育成をめざして取り組んできました。平成22年度からは、サブテーマとして「言語活動の充実における授業改善」とし、言語活動に取り組みました。生活・学習の基盤である学級・学年の集団づくりにおける言語活動として「朝の会・帰りの会の司会、学級会での班活動などの話し合いの場面での筋道を立てた話し方」の指導を行いました。また言語活動を通して、楽しくわかる授業のために「知識・技能の確実な定着のための言語活動」や「論理的思考力の育成のための言語活動」の取組を行いました。昨年度の取組結果、話し合いの仕方、種類、発表の仕方などの形式を学びましたが、実践面で課題も残りました。

「全国学力・状況調査児童生徒質問紙」では過去3回分の言語活動に関わる質問の回答を見ると、78, 5%（平成25年）・70, 2%（平成24年）・81, 5%（平成22年）の生徒が学校の授業などで、自分の考えを人に説明したり、文章を書いたりするのは難しいまたはどちらかというと感じている状況がみられます。

このことから、より一層の言語活動の充実が、今本校に求められます。

II 研究の具体的取組内容と方法

1 授業形態の改善と統一 「山北スタイル」づくり

本校が従来行ってきた各教科における「受信→思考→発信」を見直し改善しました。それぞれの過程でどのような手だてが良いか研究してきました。

〔例〕(1) モチベーションをあげる提示（興味・関心・意欲を高めるもの）

→最新の話題，生活に関わる話題，画像等の提示等

(2) ノートに自由に記述させる手だて（思考・判断・表現を高める手だて）

→白紙，「無解答対策」としての，話型の提示，ヒントの提示など

(3) 自由な解決と表現，意見交換，仮説に基づく実験・観察等（思考，技能・表現）

→小グループのホワイトボードの活用・表現（結果・答えの発表等）

(4) 共通理解が図れる工夫，次につながる評価（知識・理解）

→知識整理が図れる板書，図表などの提示の工夫

2 基礎学力定着のための取組の継続

(1) 自主学习ノートの作成 → 「自学ノート」：良いものを展示，作成方法指導

(2) 家庭学習時間記録ファイル → 「学習計画表・実施結果」：定期点検

- (3) 朝学習 → 読書活動の定着、「書くこと」の定着「作文」の実施
- (4) 山北サポートタイム → 基礎基本の定着「国語」「数学」「英語」において年間10回実施

3 教材教具の開発・工夫

○授業改善に関わって、生徒の理解を支援する教材の開発と工夫。

- ・県教委の授業改善プランに関わる教材・教具の開発・工夫。
- ・本校生徒が課題の多い単元の、教材・教具の開発・工夫。

4 教科に関わる掲示物の工夫

- ・学力向上につながるような、教材（図表・ポスター・授業関連資料等）の掲示、話型（授業の受け答え・やりとりのパターン）の掲示などを通して、授業だけでなく、自然に興味関心を持ったり、暗記したりできるように心掛けました。
- ・教科、学年ごとに共通の教室掲示をしたり、廊下、特別教室等で実施しました。

5 授業改善プランを生かした研究実践

- ・今年度から3年間、県教委「授業改善プラン実践事業」推進校の指定を受けており、今年度は11/28に「数学」「英語」「理科」で公開授業を実施し、改善プランに基づいた授業研究を行いました。また、全職員が「授業改善プラン」を作成し、授業改善プランに基づく授業を行いました。本年度は新採用研究授業も実施し、お互いに学び合うことができました。

III 成果と課題

1 成果

- (1) 授業形態の改善を各教科、各自が意識し、導入の工夫や全体、グループ、個人での課題解決の時間を取り入れることができました。
- (2) 基礎学力定着のため継続してきた「自主学习ノート」「家庭学習時間記録ファイル」「朝学習」「山北サポートタイム」をさらに充実させることができました。
- (3) 授業改善に向けて、多くの教科でホワイトボードを活用したり、生徒の理解を支援するための教具を工夫することができました。
- (4) 「授業改善プラン」公開授業にも関わって、廊下やトイレ特別教室の壁等に教科に関わる掲示物を掲示し、参加された先生方からも良い評価をいただきました。
- (5) 県の指定である「授業改善プラン実践事業」において、「数学」「理科」「英語」の公開授業を行い、地域の学校への授業提案ができました。

2 課題

- (1) 「山北スタイル」をさらに充実させ、全教科、全職員での共通理解を深め、教科や単元に応じたいくつかの「スタイル」を検討。
- (2) 生徒の理解を深めたり、関心を高めるような教材教具や掲示物をさらに工夫していく。
- (3) 2年目の「授業改善プラン実践事業」に向けて、各教科で取り組んでいく。

(研究主任 丹澤 基予子)